



# 拓北・あいの里地区社協ミニ通信

拓北・あいの里地区社会福祉協議会

会長：渡邊 寛 広報部長：森下 満

この広報紙は赤い羽根共同募金の支援を受けています

No 90

令和 6年 10月 21日

**10月9日(水)に社協常任理事会が行われました。  
各部の活動状況と今後の予定についてご報告します。**



めっきり秋らしい季節を迎えています。  
みなさま、体調を崩さぬよう、お気を付けください。

## ■ ボランティア企画部より ■

・生活支援ボランティア活動がいよいよスタートします

9月27日(金) 13時から、地区センター福まちの部屋で、生活支援ボランティア登録者13名を含む総勢20名が出席し、ボランティア研修会が行われました。北区社協の福本さんを講師とする「ボランティア活動の基本～これから活動していくにあたって～」の研修、生活支援推進連絡会取組のきっかけからこれまで2回の検討結果の概要紹介、生活支援ボランティア申込～対応手順マニュアル(案)の説明、ボランティア名札用写真撮影、ボランティアメンバー同士のグループLINE設定が行われました。

10月11日(金) 13時30分から、地区センター福まちの部屋で、生活支援ボランティアさんが再集合し、名札渡し及び事業開始時期の検討及び確認、生活支援ボランティア活動リストの再点検、連町・民児協への事業開始の説明及び協力依頼、生活支援ボランティアの対応手順の再確認、生活支援ボランティア事業開始の広報について打合せを行いました。

詳細については近日中に発行予定の「ミニ通信・ボランティア特別号 その2」を参照してください。  
なお、この活動については、北区社協だよりno.103において、地域の支え合いを紹介!「身近な生活お助け隊 始動!」と題して紹介されることになっています。



総勢20名が参加した、9月27日のボランティア研修会

## ■ ふれあい交流部より ■

- ・9月26日(木)の「福まちサロン」は拓北パレス会館に13名の高齢者が参加され、「私の防災対策」の自己紹介からスタートし、さっぽろスマイル体操(脳トレ、筋トレバージョン)、クイズ、合唱「幸せなら手をたたこう」、カードゲーム「虹色のへび」などを楽しまれました。
- ・10月10日(木)の「ひまわりクラブ」は地区センター和室に3組7名の親子さんが参加され、自由遊び、紙芝居・絵本の読み聞かせなどを楽しまれました。

次回は11月14日(木) 10:00~11:30、地区センター和室にて開催予定です。

◇今後の予定◇ 「ふれあいピクニック」(75歳以上を対象)、10月30日(水)、駒岡資源選別センター・保養センター駒岡(真駒内)にて開催予定。

## ■ 地域ケア部より ■

9月例会は17日(火) 18:30~20:00、札幌あいの里不動産社長の岩本寿夫(いわもと・ひさお)さんをゲストに「ニュータウンから高齢者のまちへ ◆不動産業から見るあいの里の今むかし ◆高齢者の不動産取引の諸問題 他」をテーマに、地区センター2階集会室にて、話題提供をいただき、意見交換を行いました。



10月9日の常任理事会の様子



ご高齢の方13名が参加した、9月26日の福まちサロン。「幸せなら手をたたこう」を合唱しているところ



3組・7名の親子さんたちが参加した、10月10日のひまわりクラブ



地区センター27名、オンライン4名、合計31名が参加した、9月17日の地域ケア部の例会

[ 裏につづく ➡ ]

地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行われ、参加者は地区センター27名、オンライン4名、合計31名。

最初に、拓北・あいの里のまちづくりの歴史が語られました。1964年に北海道勤労者住宅生協が拓北でひまわり団地を造成(住宅651戸、955区画)したことを嚆矢とします。1967年にはJR東篠路駅(1995年、拓北駅へ名称変更)が開業。当時、利用者数は平均268人/日だったのが、現在(2022年)は平均1,987人/日と、7.4倍に増えました。

1983年、住宅・都市整備公団(現在は都市再生機構(UR))、北海道住宅供給公社などが主体のニュータウンである、「札幌ニュータウンあいの里」として開発されました。計画人口は32,000人(8,100戸)、総面積約378ha。翌1984年には篠路町拓北地区が「あいの里」へ町名変更されました。

ちなみに、拓北という地名は、1870年代中頃(明治10年代)から入植者たちが訪れ集落が形成されましたが、1937年にこれらは北海道拓殖銀行の社有地であることと、拓殖精神を強調する意味から、一帯を「拓北」と改称することになったそうです。また、あいの里という地名は、明治の開拓期に付近一帯で藍の栽培が盛んであったことと、「人々に愛される街」になることの願いから、ニュータウンの愛称として名付けられ、それが正式な町名となったことが紹介されました。

1986年：JR「あいの里教育大」駅開業、市民生協仮店舗開業、1987年：北海道教育大学が移転、平成に入って、1989年：駅前に分譲マンション建設・入居、1991年：札沼線が一般公募にて学園都市線と愛称が付けられ、1995年：釜谷臼駅からあいの里公園駅へと改称、1997年：篠路駅からあいの里教育大駅まで複線化、1998年：東急ストア・東急アルテ開店、1999年：住宅・都市整備公団にて定期借地権付き土地の申し込み開始、2002年：南あいの里ニュータウン開発(計画人口4,000人、総面積約49ha)が始まり、2012年：桑園駅から北海道医療大駅まで電化されました。

国土地理院の空中写真を見ると、1978年頃は拓北のひまわり団地ができていましたが、その他は田畑が広がっている状況でした。1986年頃になるとニュータウンあいの里の道路の造成が進み、一部に住宅が建てられるようになりました。2020年頃は南あいの里の開発も進み、ほぼ現在の姿を見ることができます。

人口推移をみると、拓北、あいの里は2011年の10,246人、20,634人をピークとし、2024年は9,778人、19,616人となっています。また南あいの里は2024年で4,119人となっています。

2022年9月時点で、総人口における高齢者の占める割合は29.1%で、日本は超高齢社会となっています。2021年、65歳以上の住宅所有状況は、一戸建て・持ち家が75.6%、マンション等の集合住宅・持ち家が11.8%であり、高齢者の不動産所有率が高い状況にあります。拓北・あいの里地区も例外ではありません。

高齢者が家売るメリットとして、①老後の資金が入手できる、②相続がしやすくなる、③老後の生活に適した住宅に住み替えられる、④家じまいができる、があげられます。一方、デメリットとして、①住み慣れた環境を手放すストレスがある、②荷物を減らすのが大変、があげられます。

拓北・あいの里地区では冬の雪が多いこともあって、戸建てを売ってマンションに住み替えたい、という高齢の方が結構いらっしゃいます。家の買い替え、住み替えのパターンとして、以下の3つが考えられますが、それぞれに注意が必要です。①都心から郊外に、の場合、生活が不便でコストがかかる、車が必須、家の資産価値が低い、濃密な近所づきあい、刺激が少ない、が注意点としてあげられます。②戸建てからマンションに、の場合、荷物を減らすのが大変、管理費・積立金などの維持費がかさむ、音が気になる、近所づきあいが少ない、自由度が低い、管理組合活動がある。③賃貸住宅に、の場合、年齢が上がると借りにくい、長生きリスクがある、気軽にリフォームできない。こういう注意点に留意し、家の買い替え、住み替えを考慮する必要があります。

最後に、高齢者が不動産売買を行う際の注意点として、①住宅ローンが組みにくい、②意思能力が低下していると取引できないことに留意してください。

なお、10月例会は15日(火)18:30~20:00、地区センター2階集会室にて、春の歌～小規模多機能型居宅介護(介護支援専門員)の杉本香陽(すぎもと・かよう)さんをゲストに「折れない心を育てるいのちの授業～温かなまちづくりのためのヒント～」をテーマに、地区センター2階集会室にて、話題提供をいただき、意見交換を行いました。その内容については次号の91号で報告いたします。

#### ◇ 今後の予定 ◇

11月例会は19日(火)18:30~20:00、地区センター2階集会室にて、介護付きホームふれあいの里 藍華(あいか)施設長の佐藤朋子さんをゲストに「地域とふれあい、あなたらしさに寄り添う◆施設紹介 ◆人生の住まいや生き方選択 他」をテーマに、話題提供をいただき、意見交換を行う予定です。

地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行います。「ケア施設町内会会員メンバーリスト」登録者にはZoomアクセス情報をお知らせします。その他の方はケア施設町内会事務局・長谷川までメール hasepy55@gmail.com でお問合せ下さい。